



鶏鳴

2009年11月8日(第30号)

イエスの言葉

『皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい』

聖書(マタイ福音書22章21節)

牧師 河合 裕志

ある時ファリサイ派の人々とヘロデ派の人々が「どのようにしてイエスの言葉じりをとらえて罠にかけようかと相談した」。ファリサイ派にとってイエスは昔ながらのユダヤ教の枠を破壊する危険人物と映っていた。ヘロデ派はイエスの奴は民衆をたきつけて反ヘロデ王の運動を起こすのではないかとマーク。普段は仲の悪い両者だったが見事利害が一致。イエス打倒のためにガッチリと手を組んだ。

そして思案に思案を重ね、ここにとぎすまされた一個の質問を提出。それは難問中の難問。大変に危険な問い合わせ。「どうお思いでしょうか、教えてください。皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか」。随分と丁重に差し出した。これには猛毒が含まれている。もしイエスが「納めよ」と答えればイエスに対する民衆の人気はガタオチに。多くの心ある民衆は支配者ローマ皇帝への納税は屈辱と考えていたから。そしてもしイエスが「納めるな」と言ったらどうなる？

民衆の喝采は受けるけど直ちにローマに対し謀反ありと反逆罪に問われ処刑に。さあ困った、どうするイエス。

「偽善者たち、なぜわたしを試そうとするのか。税金に納めるお金を見せなさい」

とまずイエスは口を開く。言われるままに彼らがデナリオン銀貨を持って来る。イエスはこれを手にとりあげ「これは、だれの肖像と銘か」と逆質問。彼らは「皇帝のものです」と。確かにそこにはティベリウス皇帝(紀元14年より37年在位)の肖像とラテン語で「崇拝すべき神の崇拝すべき子 皇帝ティベリウス」と銘がくっきりと見られる。それからイエスは言った。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」。果たしてこれを聞くと彼らは驚いてシッポをまいて退散。

ここでイエスは皇帝(カイザル)のものは皇帝にと述べ銀貨の発行元、所有者である皇帝への納税を承認。広くこの世の秩序に反対でない姿勢を示した。

しかし「神のもの」がある筈でこれは「神に返せ」と。神のものとは一体何？

それは人間かも。人間は神によって神の似姿として創造(創世記1章)。人間には神の肖像と銘がペタンと刻まれている。良心、自由、創造的能力等がそれ。人間の発行元、所有者は神。この人間は神に返さねば。返すって？

それは神に栄光、賛美、礼拝を捧げること。皇帝にはこれは返せない。

集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分
 子どもの教会 : 毎日曜日午前9時
 中高校生会 : 毎日曜日礼拝後
 婦人会・壮年会 : 第2日曜日礼拝後
 聖書を学ぶ集い : 第4水曜日午前10時
 オリーブの会(読書会) : 第3月曜日午前10時